

おにぎりというきぎずな

甲府市立石田小学校五年

小澤 芽久里

私の家の近くには、沢山の田んぼがある。今まで気にもとめず何気なく歩いてる道だった。でもあの日の出来事をきっかけに私は、少しずつ育っていく稲に思いをよせられるようになった。あの日の出来事で。

その出来事は十一月の雪のふった日のことだった。ずっと病気をわずらっていた祖母の容態が急変したのだ。身体を動かすことができず、口もきけない祖母はしせつから診療所にはこばれた。私達は、家族みんなで祖母をかんびょうした。特に母はずっとつきつきりで心配から

か食事ものどをとおらなかつた。母はほとんどんやせていき、私はとても心配になった。私は二人に何かできないかと思っておにぎりを作った。祖母は、もう食べられない身体だけど、母はとっても感動してくれて、パクパク食べてくれた。「今まで食べた中で一番おいしいよ。」といってくれた。母と、私と一緒に祖母のかんびょうをしていると、親せきの人達がおみまいにきてくれた。「食べなきゃだめだよ。二人がたおれたらおばあちゃん悲しくなるでしょ。」といつて「さあお食べ。」といいながらおにぎりをさし出してくれた。いろんなおばがおにぎりを作ってくれたので、おにぎりだらけになった。私はおば達の思いがうれしかったためそれぞれのおにぎりをおなかいっぱいだったけど食べた。大きさも味もみ

んな違うけど、一つ一緒だった所がある。それは心がこもっていた所だ。祖母の周りでみんなでおにぎりを食べた。泣きながら、笑いながら食べた。ふと祖母の顔を見ると、にっこりとほほえんで、やさしそうな、幸せそうな顔に見えた。私は何気なくおにぎりを作ったけど、おばはどうしておにぎりを作ったのか聞いてみた。「おにぎりっていうのは、手でにぎるでしょ。だからおばあちゃんの病気が良くなってほしい気持ちでこめておにぎりをにぎったんだよ。それと、おにぎりは、おむすびというでしょ。だからおにぎりには、人と人を結ぶという意味があるんだよ。」と教えてくれた。それを聞いて、こんど思いを伝えたいときは、心をこめておにぎりを作ろうと思つた。なににしても思いがこめられた物は、

必ず相手に伝わるのだと思う。おばが教えてくれたことはとても私の心にきざまれた。

あの出来事から一週間後祖母は、おたん生日をむかえると、そのまま天国へ旅立った。「思い」という意味「結ぶ」という意味。祖母が私に教えてくれた最後の教えだったのだと思う。

今、ああおとしげっている稲。もうすぐ農家の人達が心をこめて育てた稲を収かくする時期がくる。それは、新米の季節。私はお米が大好きだ。今年もそしてこれからお米という命をいただいでいきたい。その新米で祖母の墓前におにぎりを作りたい。